

本冊子の趣旨・目的

葉山災害ボランティアネットワーク(以下、HSVN)は2022年5月19日で設立10周年を迎えました。設立後の10年間、HSVN と葉山町社会福祉協議会(以下、葉山町社協)は、手を携えて葉山町における災害ボランティアセンター(以下、災害 VC)の仕組み作りを進めてきました。

この冊子は、HSVN 設立10周年にあたり、これまでの軌跡を振り返るとともに、今後の在り方を相互に確認し、双方の次世代の担い手に継承するために、HSVN と葉山町社協が共同で編集したものです。

HSVN と葉山町社協が共通の意識をもって進んでゆく中で、節目の10周年を迎えるにあたり、このような冊子を作成し、HSVN 10年の活動を振り返る事ができるのは大変嬉しく思います。是非、ご一読いただけますようお願い致します。

編集担当一同

前史 設立まで

2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、葉山町社協も様々な対応を迫られました。中でも、震災発生から1か月後、「関東ブロック社協災害時相互支援協定」に基づいて、神奈川県社会福祉協議会から市町村社協職員の被災地支援参加募集があり、第6陣として4月18日～24日に10名が参加し、葉山町社協からも1名が岩手県釜石市の災害VCの運営支援を行いました。

支援に参加した職員は現地の過酷な状況を目の当たりにして、災害対応の難しさ、中でも災害VCの重要性を改めて確認するとともに、葉山での災害VCの仕組み造りを早急に進める必要があると痛感しました。当時の葉山町では、災害ボランティアの組織化がされておらず、もちろん災害VCの設置運営マニュアルもありませんでした。このような状況を踏まえ、葉山町社協では災害VCと一緒に運営してもらえるボランティア団体を結成する必要があると感じました。

2011年5月、神奈川災害ボランティアネットワーク(以下、KSVN)の協力を得て、現地の状況も調査し、ボランティアが減少する同年9月にボランティア活動を行うことと、なりました。また、参加者同士の横のつながりをつくること。今後の災害VCについて、町民が中心となって協議するための土台を作ること。以上を念頭に、「東日本大震災復興支援ボランティアバス」を運行することを決定しました。

※この間、葉山町社協では被災地支援として様々な取り組みを実施しました。

- ①たすけあい資金等の貸し付け
 - ・福島県からの避難者に生活費支給
- ②被災者支援プロジェクト「おいでよ 葉山」
 - (1)ホームステイ ～長期的ホームステイ～
 - (2)夏休みゆったり親子ステイ in HAYAMA ～期間限定ホームステイ～
 - (3)支援物資(絵本と調理器具)の収集と寄贈
- ③災害支援ボランティアへの対応
 - ・ボランティア保険加入手続き対応・被災地支援ボランティアの送り出し
- ④ホームページでの情報提供
 - ・東日本大震災に関する情報の更新
- ⑤災害支援金と活動支援金の受付
- ⑥東日本大震災復興ボランティアバスの企画・募集・準備など

その他の取り組み

ボランティアバスの運行から HSVN 設立へ

2011年9月27日～30日葉山町社協の企画により、岩手県釜石市へ復興支援バスを運行することとなり、約30名の主に葉山町民のボランティアが参加し、釜石市箱崎で活動を行いました。震災後初めてボランティアが入った箱崎地区の状況は想像以上の惨状で、参加者は心を痛めるだけでなく、ボランティアバスの後も“何か”しなくてはならない、と考えるようになったのは自然な成り行きでした。

また、岩手県遠野市に設置された巨大な災害 VC を見たことも、参加者に強烈な印象を残しました。そこには毎朝訪れる数百人のボランティアと、それを整然と捌いていく災害 VC という仕組みが出来上がっていました。私たちはその仕組みに感嘆するとともに、葉山町に置き換えてみた場合の課題に向き合わされました。

大震災級の災害が葉山町を含む地域で発生した時、葉山町には一体どれくらいのボランティアが助けに来てくれるのか。来てくれたとしても、そのボランティアを正式に受け入れて、活動に繋げる事はできるのか。葉山にふさわしいその仕組みはどうあるべきか。それはどうやって作れば良いのか。誰がそれを担うのか。といった大きな課題でした。



2011年9月 HSVN 設立の原点となった宮城県東松島へのボラバス

2012年5月 HSVN 設立

実際に被災地支援に行ったことで気づかされた、「葉山町に大きな災害が起こった時、どのような備えが必要なのか」という問題意識は、11月21日葉山町社協の呼びかけに応じて参集した、ボランティアバス参加者を中心に開かれた「葉山災害ボランティアセンターについて考える会」開催に繋がりました。

この会では、阪神淡路・東日本大震災の教訓を学ぶとともに、葉山町で同様の災害が起きた時には、現地で見たように、ボランティアを受け入れる災害VCというものが必要になることを確認しました。さらに、先行する逗子市・横須賀市など近隣地域の事情や、災害VC運営を担う諸団体と連携を図るネットワーク作りの重要性なども話し合いました。

その後、数度の検討を重ねた結果、2012年1月に「葉山災害ボランティアネット準備会」が結成され、さらにその後も検討会を重ねていき、遂に2012年5月19日の設立総会において、正式に「葉山災害ボランティアネットワーク」が発足しました。

本会は、葉山町が大規模な災害に被災した時に、行政や地元の団体、NPO、社会福祉協議会などの“地域に根ざした機関・団体”との連携・協働により、災害ボランティアセンターの設置および運営を、地域住民主導で行い、以って円滑な救援活動が行なわれることを目指します。

また、不断の活動として、被災地への具体的な支援活動を行ない、被災された方々の復旧復興に資するとともに、このことを通して災害に関する多くの知識や実践的なスキルを教訓として学び、災害ボランティアコーディネーターの育成に努めます。

さらに、地域と災害ボランティアが、平素から「顔の見える関係」を構築できるよう、交流や情報交換に努めるとともに、被災支援訓練などにも取り組んでいきます。

以上、ここに『葉山災害ボランティアネットワーク(略称 HSVN)』を設立しようとするものです。

設立趣意書より抜粋

HSVNI0 年の活動の歴史

2012年の設立以来 10年、その課題の解決に向かって、災害 VC 運営に関わる仕組み作りと、被災地支援活動を HSVNI は様々行ってきました。以下に 10年の歴史を振り返りながら、主な活動を紹介します。

災害ボランティアセンター設置運営訓練

「葉山災害ボランティアセンター」は、地域防災計画に定められた災害規模の基準を満たす場合に、町の要請により葉山町社協が立上げるのですが、葉山町社協も発災時に災害 VC 運営に割ける人員には限りがあります。そこで HSVNI の会員ボランティアが運営を支えるスタッフとして災害 VC 運営に携わることで、一日も早い被災者の日常を取り戻すための支援につながります。

災害 VC を円滑に運営するため、一連の活動の流れや、具体的な対処の仕方、注意すべき点などを事前に学ぶ機会が「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」であり、HSVNI の活動の中で、被災地支援活動と並ぶもっとも重要な活動です。過去 10年の間 HSVNI と葉山町社協は共催で別表の内容の災害 VC の設置運営訓練を重ねてきました。

災害 VC の運営はニーズ(被災者の困りごと)の調査から始まり、ボランティアの募集・受付、マッチング(ボランティア活動の調整)、資機材の調達管理などの他に、広報活動や種々の団体との交渉・調整など幅広い活動が必要となります。また近年各地でたびたび起きる災害によって災害 VC が設置されるケースも増えています。その中で運営方法も変化が見られ、コロナ感染症拡大以降は、運営に ICT(インターネット・コミュニケーション・テクノロジー)を導入し、人と人の接触機会を減らす取り組みも普及しています。そのような時代の変化に応じた訓練に取り組む必要があります。

コロナ感染症拡大予防によって 2019年2月の定例訓練から 2022 年 4 月まで、集合しての訓練が行えなかったのは残念でした。しかし 2022年4月17日に「災害発生時の対応体験会」を開催し、実地の訓練を再開することができました。これ以降は感染症対策をしっかりとしながら、実地の訓練を行っていく予定です。

◆訓練のポイント

- 毎回課題を決めて実践的な訓練を心掛けています。
- 葉山町独自のマニュアルと様式に沿った訓練を行い、改良点があればその都度修正を行っています。
- 2018年3月の訓練には他団体からの参加も含めて、それまでで最大の53名の参加がありました。

ました。

- 赤十字奉仕団、防災士会、防災ネットワークなど町内の防災関連団体にも呼び掛けて参加をお願いしています。

2013年2月	ボランティアコーディネーター初級講座	KSVN作成の「災害ボランティアセンター運営ガイドライン」を元に、災害VC運営の全体の流れを学び、ボランティアコーディネーターとは如何なるものかを学ぶ訓練を行った。
2014年2月	全体流し訓練～ボランティア受付、マッチング、ニーズ受付	ボランティアセンター運営の全体の流れを、来所ボランティアと各班担当に分かれて、実際に模擬体験する訓練を行った。
2015年2月	ニーズの聞き取り～派遣依頼票作成訓練、資機材取扱い訓練	ニーズ受付班で作成するボランティア派遣依頼票とその元となるニーズ聞き取り調査票を基に、受理判定を行う訓練と資機材の種別と取り扱いを学ぶ訓練を行った。
2016年2月	「災害ボラセンの情報伝達力研修」広報力訓練	災害VC設置運営訓練の一貫として、広報班に着目し、災害VCにおける情報伝達の必要性を認識し、情報伝達の方法の理解を図る訓練を講師を招いて行った。
2017年2月	『災害ボランティアセンター・ロールプレイング』訓練	ロールプレイング形式により、各班の役割を交代しながら担当してみる訓練。ボランティアセンター運営の一連の流れと、様式の取り扱い等について体感する訓練でもあった。
2017年10月	ニーズ聞き取り調査訓練	同年2月の訓練では出来なかった「ニーズ聞き取り調査」の部分を集中的に行う訓練。被災者からの聞き取り調査を行い、被災状況を判断して、必要資機材、人員数を見積もり、マッチング班に引き継ぐ訓練を行った。
2018年3月	事前マッチング訓練	事前に登録を申込んだ全てのボランティアの資格・特技・経験値を勘案したうえで、ボランティア派遣を望んでいる被災者のニーズの緊急度・優先度を考慮して活動を割当てる訓練。
2019年2月	『ボランティア体験ロールプレイ』訓練	ロールプレイングでは、「はやま災害VC設置運営マニュアルVol.2」に準拠したボランティアセンター運営の一連の流れ(ボランティア受付・ニーズ受付・マッチング・送り出し)を体験することと、葉山独自の様式の取り扱い等について検証しました。
2019年11月	「災害VC立上げ前情報伝達訓練(メーリングリスト利用)」	「実際に災害ボランティアセンターを運営してみる！」という訓練は緊急事態宣言発令のため実施延期。代替案としてメーリングリストを使った情報伝達訓練を行った。



これまでの災害 VC 設置運営訓練の様子

被災地支援活動

各地で起こる災害や、被災地に駆けつけ支援活動を行うことは、葉山町における災害 VC の仕組み作りと並ぶ HSVN の大きな活動目的です。被災地の一日も早い復旧をお手伝いすると同時に、現地の災害 VC の運営手法を学ぶ機会ともなっています。

年月	県	市町村	活動内容
2011年9月	岩手県	釜石市箱崎町	葉山社協主催ボラバス。ボランティアが震災後初めて入った地区での活動。瓦礫の撤去清掃作業など。HSVN発足のきっかけとなった。
2012年3月	宮城県	東松島市	HSVN(準備会)主催のボラバス。42名参加。主に海岸清掃を行う。1泊3日。
10月	宮城県	女川町	HSVN主催ボラバス。33名参加。牡鹿半島福浦で牡蠣の洗浄作業など。
2013年7月	宮城県・岩手県	大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市	「かながわ災害救援ボランティアチーム」に企画とコーディネートを依頼し、HSVNが主催した研修ツアー。自治会長さんに当時のお話を聞く。壊れた防潮堤に立ってみる。「釜石の奇跡」を歩いてみる。古本販売を通して支援している陸前高田市の支援先仮設図書館を訪問する。三陸鉄道に乗って車中から被災地を見る。奇跡の一本松を見る。などの研修ツアー。1泊3日。39名参加
8月	静岡県	西伊豆町	緊急支援活動。4名で駆けつけ日帰りの活動。サテライトでマッチングを受ける。おもに土砂の撤去作業を行う。翌年のHSVN総会で社協職員の方に話を聞いた。
2014年7月	山形県	南陽市	会員3名(のべ)が、かながわ311ネットワーク主催「南陽市漆山豪雨災害緊急支援ボランティアバス・南陽1号」で南陽市水害被害支援活動に参加。
2015年9月	栃木県	鹿沼市	自家用車2台、トラック1台で9名が参加。1泊2日の活動。個人宅作業場の土砂撤去作業。整然とした災害VC運営に感銘を受け、翌年のHSVN総会で記念講演として社協職員の話聞いた。
9月	栃木県	常総市	逗子・葉山社協共催のボラバスに8名参加。個人宅の土砂の撤去。大規模災害VCであり、サテライトのサテライトで資機材を受け取る。
2016年8月	岩手県	岩泉町	岩手県社協のボラバス(盛岡駅-岩泉町)に2名参加。土砂撤去清掃作業。現場はNPOのオープンジャパンが仕切っている事に感心した。
2018年8月	岡山県	総社市・倉敷市	それぞれの災害VC支援にのべ3名がKSVNなどのボラバスに参加。(うち1名は参加者管理運営を兼任)
9月	広島県	尾道市	
2019年9月	千葉県	鋸南町	千葉県鋸南町災害VC支援(9月14日)自家用車1台、2tトラック1台で5名参加。駐車場誘導、V受付、V活動後の帰着報告受付等VC本部活動の支援を行った。
2019年11月	神奈川県	相模原市	ボラバス1台、トラック1台で20名(高校生5名、中学生1名含む)参加。相模原市津久井災害VCで資機材を受取り、団体で指定場所の泥出し(土嚢袋詰め)、廃棄場所への運搬(6往復)を行った。
2019年9月~2020年1月		他団体主催の台風15号、19号被災地支援活動にHSVNから会員が参加	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市金沢区工業団地災害ボランティア(9月21~23日)に延べ5名。 ・KSVN千葉県富津市ボラバス(9月29日)に1名。 ・KSVN川崎市災害ボランティア(10月22、26日)に各1名。 ・KSVN相模原市ボラバス(11月2日)に1名。 ・KSVN千葉県富津市ボラバス(11月30日)に1名。 ・KSVN栃木県佐野市ボラバス(12月8日)に1名。 ・311ネット福島県いわき市ボラバス(12月13日)に2名。 ・KSVN宮城県丸森町ボラバス(2020年1月11日)に1名。



鹿沼市での活動 1



鹿沼市での活動 2



相模原市での活動

その他の被災地支援活動

HSVN は災害ボランティア活動以外に様々な被災地支援活動を、メンバーの積極的な提案によって行っています。個々のメンバーが思うことを随時提案し、それを会としても支持し実際の活動に繋がるケースが多いことは、HSVN の一つの特色かもしれません。全てを紹介するのは難しいので、主なものを紹介します。

- 陸前高田市立図書館プロジェクトに参加：古本の収集－売却を通じて図書館再建の資金協力。(表 2 の 2013年 7 月参照)
- 女川高白浜草履組合の支援：古 T シャツを集めて布草履の材料にしてもらいます。
- 同組合の「女川ウミネコカフェ」建設の手伝い、農園開墾などを手伝いました。
- 森戸海岸花火大会の会場で復興応援屋台を行いました。
- 「はやま語り場」で被災地から仕入れた商品を販売しました。
- 「ふるさと広場」でも復興応援屋台を行いました。
- 熊本地震の被災地の視察を行いました。翌年も再訪しました。
- 毎年震災鎮魂イベント「100 万人の線香花火ナイト(希望の光プロジェクト)」に参加しています。



海の家の一 corner を借りた復興応援屋台

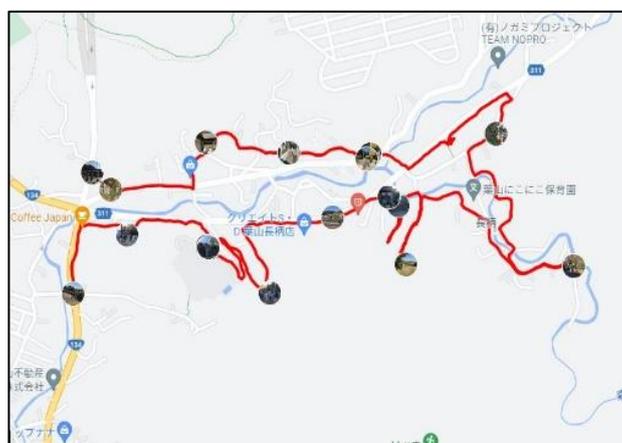


語り場での被災地の商品販売

はやま町あるき

町内の危険箇所の調査、避難路の確認、防災倉庫の位置などを歩いて見て回る活動です。その中で地区の町内会の方たちと懇談を行い、地区特有の防災上の問題などを伺い、その結果を防災マップに反映させる活動を行っています。会員だけではなく、広く町民の参加を募り行っており、現在2周目の周回に入ったところです。(2022年4月現在)

表3 はやま町あるき		
第1回	2015年7月	木古庭
第2回	2015年11月	上山口
第3回	2016年3月	下山口
第4回	2016年6月	堀内パート1海側
第5回	2016年10月	一色パート1山側
第6回	2016年12月	一色パート2海側
第7回	2017年6月	堀内パート2山側
第8回	2017年12月	長柄パート1長柄下・森戸川
第9回	2018年1月	長柄パート2葉桜イトーピア
第10回	2018年6月	木古庭パート2
第11回	2018年12月	上山口
第12回	2019年11月	芝崎～森戸海岸通り



↑「はやま町あるき」の様子

←結果を地図にして確認

HSVN の防災活動

HSVN は災害 VC の仕組み作り、被災地支援活動のほか、防災関連の活動も行っています。

「はやま語り場」

不定期で開催している「語り場」は、広く町民を対象にした、誰でもふらっと立ち寄れるオープンな集いです。逃げ地図やマイ防災マップ作り、支援活動の報告会や、3月には「あの日を忘れない」などの防災啓発活動を行ってきました。時には被災地から取り寄せた物品の販売も行い、被災地の復興に協力しています。

葉山語り場 2019年 9月15日

災害を生きのびる

生きのびるための地図の活用法

災害が起きた時は、家族ととも、まずは「生きのびる」事が大切です。地図は「生きのびる」ためにも重要な事を教えてくれます。避難指示・避難勧告・警戒レベルのその時どきする？

9月15日(日)
10:00~12:00
元町会館中会議室

ハザードマップで生きのびる!
災害時の避難は、インターネットを調べたままの地図情報

「逃げ地図」で生きのびる!
一番近、避難場所まで自分で歩いていける地図を作ります

申し込み不要・どなたでも参加可能です。
「おまっご」の用意もしております。

被災地支援のために、古本と古Tシャツを集めます。当日会場にお持ちください。
以下の事は参加が前提です。百円未満の「おまっご」を1人1枚お持ちください。参加費1500円です。

葉山災害ボランティアネットワーク(HSVN)
A-145-2 <http://url.jp/hsvn/home>
25-C-177 <https://www.facebook.com/hsvn77>
4-9-7715 hsvn77@yahoo.co.jp 入会費2000円



葉山語り場 2017年 3月11日

東日本大震災から6年 あの日を忘れない

東日本大震災から6年、あの日の事を語り継ぐことが出来ず延びる災害への備えとなるはず。それは、失われた多くの命が私たちに残してくれたメッセージではないでしょうか。語りましょう。あの日をわすれないために。

被災地から取り寄せた商品も販売します

3月11日(土)
10:00~15:00
元町会館中会議室
14:46に黙とうを行います

参加自由
出入り自由
スタイル自由

「逃げ地図」を作ってみませんか?
一番近、避難場所まで自分で歩いていける地図を作ります

「おまっご」の用意もしております。

被災地支援のために、古本と古Tシャツを集めます。当日会場にお持ちください。
以下の事は参加が前提です。百円未満の「おまっご」を1人1枚お持ちください。参加費1500円です。

葉山災害ボランティアネットワーク(HSVN)
フェイスブック <https://www.facebook.com/hsvn77>
メールアドレス hsvn77@yahoo.co.jp 入会費2000円

「てんでんこ逗葉」を応援

横浜市金沢区災害ボランティアネットワークが主宰する、逗子・葉山・金沢区の子育て世代の保護者と子供を対象に行っている「てんでんこ逗葉」の「防災キャンプ」「防災遠足」「おうちで防災」などの活動を応援しています。

KIDS 防災 PICNIC '22

6/5 **ウイテマテ** (日) (水辺のセルフレスキュー) 10/1 **おうち de ぼうさい**

10-12時 服を着たまま海に入ってみよう! 15-16時 おうちの備えをすぐ確認
一色海岸 どうしたら浮かぶかな? ZOOM 防災クイズや防災おかしを
5000円 協力: 葉山ライフセービングクラブ 無料 つくろう!

6/25 **防災デイキャンプ** (土) 12/3 **防災センター遠足** (土)

10-14時 みんなでテントをたてたり 10-15時 災害を感じてみよう!
葉山 ごはんをつくってみよう 横浜防災 地図を手にみんなでゴールを
5000円 センター 目指す「帰宅困難」を体験
3000円

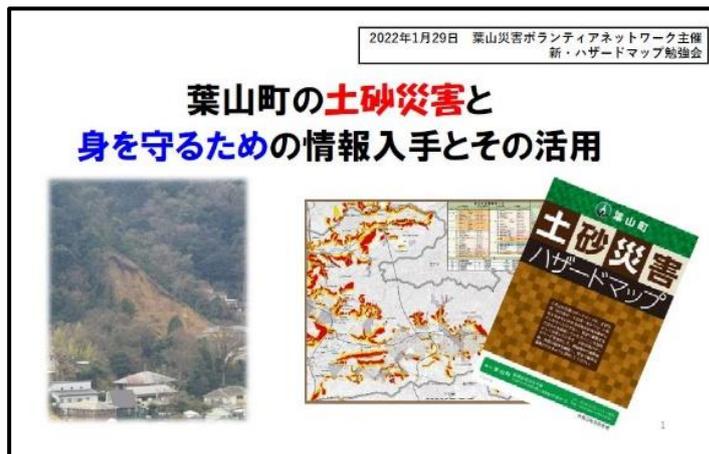
8/11 **七夕活動 and 線香花火ナイト** (木祝)

16-19時 夏休みの1日を、 参加費はボランティア保険を含んでいます。 交通費は別途実費でご用意ください。 対象は小学生以上、各組30名(先着順)です。 保護者の友のご参加もお待ちしております! 3000円 誰かのための1日に行ってみませんか? お申込等は裏面を確認下さい

「新・土砂災害ハザードマップ勉強会」

2021年7月に葉山町を襲った豪雨で、堀内三ヶ丘の斜面で土砂崩れが発生しました。このような局地的な災害は近年全国で増え続けています。そのような災害に備えるために葉山町はハザードマップを全戸に配布しています。この土砂災害の直後(2021年9月)に新しい「土砂災害ハザードマップ」が配布されましたが、指定方法の変更に伴い大幅に土砂災害特別警戒地域(レッドゾーン)が増えて町民の多くが驚きました。

HSVN は2022年1月に、新しい「土砂災害ハザードマップ」をどう理解し、どのような備えに繋がると良いのかの疑問に答えるため「新・土砂災害ハザードマップ勉強会」を、町内在住の地質研究の専門家である矢部満氏(応用地質株式会社 流砂・砂防事業部)をお招きして開催しました。残念ながらコロナの蔓延防止等重点措置が発令されたためリモート開催となってしまいましたが、多くの町民の方に参加していただきました。勉強会の講義の部分は会員・町民以外の多くの方が見られるよう YouTube で公開しました。



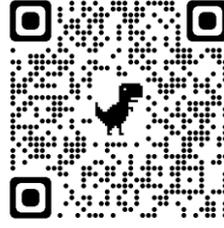
YouTube で公開中 下記 QR コードからアクセスできます。



新・土砂災害ハザードマップ
勉強会(1)



新・土砂災害ハザードマップ
勉強会(2)



新・土砂災害ハザードマップ
勉強会(3)



新・土砂災害ハザードマップ
勉強会(4)

HSVN 10 年の成果

HSVN10年の活動の成果は？と問われると、その答えは「10年に亘って活動を継続してこられたこと」に尽きるでしょう。10年の継続は葉山町社協はじめ多くの支援者、協力者がいてのことで、まずは会員の自発的な活動参加に支えられてきたことが大きな要因と考えます。

その根底にあるものは HSVN が持つ、自由で開放的な組織運営のあり方があります。「はやま町歩き」「はやま語り場」や、「100万人の線香花火ナイト」など何年にも亘って継続している活動は、いずれも会員の自発的な提案が実現に繋がったものです。その他にも「復興応援屋台」、「てんでんこ逗葉」などの様々な被災地支援活動、防災教育活動も会員の自主的な提案から始まったものです。HSVN は今後もこのような自由で開放的な組織運営を続けていきたいと思えます。

※活動実績は「HSVN10年の活動実績」参照

会員動向(会員数推移、会員獲得の方法など)

設立時には26名であった会員は、増減はありつつ、2021年度末時点で49名と約190%の大幅な増員となっています。そして、ほぼ全員が町内在住者です。コアメンバーは運営委員会を中心に10～15名です。

ここ数年、一世代若いメンバーの加入、技能集団(神奈川県土木一般労働組合鎌倉逗子葉山支部)の加入が見られました。大変嬉しい傾向です。しかし中心メンバーの高齢化が進み、若返りが課題となっています。その中で、防災活動の取り組みにより間口を広げることは、新規会員獲得には重要な視点です。

10 年の成果＝資産

HSVN は 10 年に亘り葉山町社協と、マニュアル作成、各種訓練の共催、運営委員会への担当者の参加などを通じ、強い関係性を発展させてきました。中でも「年末たすけあい助成事業」(町内で地域福祉向上のために活動している団体に対する助成制度)からの助成金は活動を支える大きな力となっています。2014 年には葉山町社協防災倉庫が設置され、備品の整備も徐々に進んでいます。

HSVN は葉山町社協とともに、2015 年 3 月に災害ボランティアセンター運営の基礎である、「葉山災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル Vol.1」を完成させました。それ以降実施された訓練の中で検証を繰り返し、得られた結果を基にマニュアルの更新を重ね、現在は「葉山災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル Vol.3」となっています。

マニュアルは、「葉山災害ボランティアセンター連携会議」(以下、連携会議)において策定された「葉山災害ボランティアセンター設置・運営指針 Vol.1」(2013年3月発行)をベースとしており、改訂の都度、連携会議の承認を得た上で、連携会議が発行元となっています。

※葉山災害ボランティアセンター連携会議

「葉山町災害ボランティアセンターの運営及び平常時の活動について、関係者が連携するために必要な協議を行う(葉山災害ボランティアセンター連携会議運営要綱より)」ために、葉山町災害 VC 担当部署(現在は総務部防災安全課・福祉部福祉課)・葉山町社協・町内の防災関連団体(現在は HSVN・日本防災士会葉山支部・赤十字社神奈川支部地域赤十字奉仕団)が一堂に会して災害 VC 運営について話し合っています。

また2021年6月に「葉山災害ボランティアセンター感染症対策ガイドライン Vol.1」を完成させました。これは、今般のコロナウイルス感染症の蔓延に対応した災害 VC 運営の具体的な対策を定めたものです。

これらの作成過程で災害対応の知識が共有されてきたことは大きな財産となっています。また「10年の活動の歴史」で紹介した、被災地支援活動で得た経験値も大きな財産となっています。

右の QR コードから、葉山町災害ボランティアセンター葉山設置・運営マニュアルがダウンロードできます。

https://www.hayamashakyo.com/8/n2/n2_3/n2_3_7.html



右の QR コードから「葉山災害ボランティアセンター感染症対策ガイドライン」説明会の動画を視聴できます。

https://www.youtube.com/watch?v=Ww7u8s8U41s&t=196s&ab_channel=葉山町社会福祉協議会



葉山町社協との共催で行った、過去7回の「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を通じて、災害 VC 運営の基礎知識(各班役務内容、全体の流れ)を持った 30~50名の町民が存在することは、実際の運営に当たっては大きな財産となるでしょう。またコアメンバーの中に、各班のリーダーを担える人材が複数名育ってきたことも大きな財産です。今後も繰り返し訓練を重ねて更なるスキルアップを目指します。

財産ということでは、「顔の見える関係」として、町内、町外の団体・個人との関係性を築いてきました。2018年にスタートした、逗子市・横須賀市・横浜市金沢区・葉山町の災害ボランティアネットワークの交流会「四地域災害ボランティアネットワーク交流会」は、2022年春に三浦市の「つながるネットワークみうら」の加入により、三浦半島全域へ広がりました。今後も交流を深めていく予定です。

県域の関係では、HSVN から KSVN に理事を出して常に情報を得ています。

ICT 関連では、HSVN のホームページの他に、葉山災害ボランティアセンターの平常時用情報ポータルサイトを公開しています。さらに、災害発生時には直ちに発災時用ポータルサイトに変更できるもとしてサンプルサイトを用意しています。また近年一般的になりつつある WEB フォームを使ったボランティアの事前登録などの研修を随時行っています。ICT は今後も強化すべきポイントです。適宜訓練・研修を行いスキルアップに努めていきます。

2020年から、新たに「PR チーム」がスタートし、Facebook、Instagram で情報を発信しています。Instagramは過去53回の投稿で277アカウントからフォローされています。この分野は今後ますます重要性が増してくるでしょう。



インスタグラムで色々な情報を発信

HSVN 10年目の課題と、今後の展望

HSVN 設立10周年(2022年)を迎えた今、直面する課題は決して少なくありません。災害 VC という仕組みを取り巻く環境の変化はどのようなものか。それに伴い HSVN はどのように対応していくべきなのか。その展望を述べます。

災害ボランティアセンター運営の標準化の動きについて

阪神淡路大震災以降、中越地震、東日本大震災などを通して<災害ボランティア>の認知が高まり、さらに近年の局地的豪雨による土砂災害、水害などの頻発を受けて、災害被災地に災害 VC が設置されるのは当然のこととなっています。それに伴い、各地の社協職員が被災地災害 VC へ応援派遣されるケースも多くなりました。

そこで課題となっているのが、マニュアル・様式が各地域によって異なっていることです。実際に災害 VC 支援に向かっても、まずは派遣先のマニュアル・様式を学ぶ必要があり、貴重な時間を割かざるを得ない効率の悪さにもどかしさを覚えることは少なくありません。この観点から、全国社協、県社協のレベルにおける標準的マニュアル・様式の統一が待たれています。

とりわけコロナ禍以降、人の密集を避けるために、ボランティアの受け付けなどに ICT(インターネット技術)が導入されるようになってきました。ある程度の専門知識と経験が必要なこの分野では、特に早期の標準化、ガイドラインの策定が不可欠です。このような標準化の動きでは、まとめ役である社会福祉協議会の果たす役割は大きく、その一員である葉山町社協においても、主体的なリーダーシップが期待されるところです。

高齢化と、次世代への継承について

HSVN 設立10年が経過した中で、運営を中心に担ってきたメンバーの年齢も10歳上がりました。葉山は周辺地域に比べ設立が遅かったため、超高齢化には若干間があるようですが、早急に若返りを図らないと、いずれ超高齢化は免れません。

解決策はただ一つ。若い世代の加入を促進することしかありません。そのためには、広報と活動の両面で若い世代との接点を、今以上に増やす必要があります。

広報に関しては、SNS などを通して若い世代に届ける工夫が必要であり、若い世代の興味を引き、参加し易い活動を提案する事も必要でしょう。HSVN が応援している「てんでんこ逗葉」の活動も参考にしていきたいと思えます。

※HSVN では2年前から「てんでんこ逗葉」の活動を応援しています。これは横浜市金沢区災害ボランティアネットワークが逗子、葉山、金沢区で子育て世代を対象に展開する幼児・小児向けの防災活動であり、HSVN からも主要なメンバーとして参加しています。



2021年、神奈川県建設一般労働組合鎌倉逗子葉山支部が、団体として賛助会員となってくれました。日頃から資機材を扱うプロ集団の加入は災害 VC 運営にとって、大変心強いことです。その他新しい加入者も、ここ数年若干名ではありますが増えているのは明るい兆しです。

しかしその動きはまだまだ足りていません。HSVNの認知度は未だ町民の中で非常に低いままなのが実情です。更なる認知度向上の努力と工夫を行っていきます。

ICT 対応

ここ数年、災害 VC の運営に、ICT の導入が普及しつつあります。コロナ感染症の影響を受け、ボランティア受付に、ICT を使った事前登録・申込みを導入し、ボランティアの密集を避ける傾向が急速に進んでいます。

HSVN でも Google フォームを使った申し込み方法を定め、その研修を行っていました。しかし2022年4月から施行された個人情報保護法の改正＝厳格化により、Google フォーム使用を禁止する自治体も出てきています。その意味でも、全国社協・県社協におけるガイドラインの策定が待たれるところです。HSVN では引き続き ICT を使った災害 VC の運営方法を研究していきます。



葉山災害 VC 通常時サイト



Google フォームを使った
ボランティア募集

VC 運営の変化への対応について

2016年の熊本地震以降、広島県の度重なる土砂災害、岡山県の水害(2018年)などがおきる中で、災害 VC を巡る仕組みや枠組みも変わってきています。すなわち、「中間支援組織」という新しい枠組みができてきたことです。中間支援組織は被災地で、行政と支援活動に取り組む社協、NPO、NGO などの諸団体と、受援側の諸組織なども含めて横断する「情報共有会議」を組織し、中長期におよぶ復旧・復興に向けた調整をおこなっていく組織体です。

全国組織として JVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)が全国規模の復旧活動の組織化、調整を担い、中長期の復興支援に繋げていく取り組みを行っています。神奈川県では「災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ」(通称みんな)が県域の中間支援組織を目指して活動を始めたところです。

このような流れに対して、我々 HSVN もその動向を注視し、地域においてどのような連携の形があるのか探っていく必要があります。つまり、葉山町が被災地となり情報共有会議が組成される際には、HSVN がそこへ参加する必要がありますし、全国各地の諸団体が支援に入ってくるとするならば、その団体の事がある程度知っておくことはスムーズな災害 VC 運営の助けになります。また、特定ニーズに葉山災害 VC では応えられない時には、全国の対応できる団体、NPO に支援を要請する場合があります。そうした情報をあらかじめ収集・交流することも平時の活動の中で取り組んでいきたいと思えます。

視野を広げる

葉山災害 VC は当初より、その活動期間を“被災後から復興期に移行するまで”と定めており、想定されるボランティア活動も限定的です。

葉山災害ボランティアセンターは葉山町が大規模災害に被災した際、葉山町災害対策本部と連携し、※復興期に移行するまでの間、災害救援ボランティアの活動の中核となり、災害により発生したニーズに対応するため葉山町内外のボランティアの受け入れ、派遣を行う。

※ 復興期＝物資、資金、救援ボランティアなど外部中心の救援活動から地域住民主体のまちづくりへ移行した時期

「葉山災害ボランティアセンター設置・運営指針 Voi.1」より

これまでの災害復興の例を見ても、復興期になると、地域のニーズに対しては、基本的に社協の通常業務の中で対応していくことになるでしょう。ボランティア団体としての HSVN はそのような状況でどのように関わっていくのか。といった災害 VC 閉所後の課題も検討していく必要があります。葉山町社協と対応方針の合意を計っていきます。

4 災害ボランティアセンターの活動内容

- (1) 町内外のボランティア活動希望者に対する災害ボランティアセンターの活動状況など必要な情報の発信
- (2) ボランティア活動希望者やNPO等の受け入れ
- (3) 被災状況及び被災者ニーズの把握
- (4) 災害により発生したニーズとボランティア活動希望者の調整
- (5) ボランティアの活動環境の整備
- (6) 活動に必要な行政・企業・町内会や各種団体など関係者との連携体制の構築

5 想定される主なボランティア活動

- (1) 支援物資の仕分けと運搬
- (2) 避難所等の支援
- (3) 屋内外の片づけ
- (4) 被災者への対応(食事の提供、水汲み、買い物、等)
- (5) 引越しの手伝い

「葉山災害ボランティアセンター設置・運営指針 Vol.1」より

三者連携について

2018年に内閣府から「防災における行政の NPO・ボランティア等との連携・協力ガイドブック～三者連携を目指して～」が発表されました。大規模な災害に備えて行政は平時から社協とボランティア団体と連携を図るよう定めたガイドラインです。言うなれば国から市町村への指導要領と考えます。

「行政は平時から地元の社会福祉協議会や NPO・ボランティア等と災害リスクや防災行政に関する情報を共有し、活かしていくための関係づくり(=ネットワーク)を進め、災害時にはそのネットワークを利用して被災状況・支援ニーズ・地域の災害対応力を総合的に把握し、積極的に外部からの支援を求めることが必要」

ガイドラインより

葉山町における三者連携

2018年に HSVN の働きかけによって、町長、担当部局と会議を行い、三者連携に向けた問題点などを話し合いました。その後、全町議との懇談会も行い、町と議会に HSVN から提言を行いました。しかし残念ながら葉山町の三者連携は進んでいないのが実情です。HSVN からの継続的な働きかけが不足していたことは反省すべき点です。いま一度、葉山町において内閣府のガイドラインに沿った施策の目に見える形での実行を促していきたいと思えます。

HSVN が行政に望む事(2018年、町と全町議との懇談会での HSVN の提案)

◆内閣府「防災における行政の NPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック 三者連携を目指して」に沿った施策の実施

・行政の災害ボランティアセンターに対する支援体制の明確化と前進

◆地域防災計画関連

・指定場所の「保育園・教育総合センター2階学びの広場及び研修室」の環境整備(Wi-Fi 環境など)

・災害ボランティアセンター用駐車場、長期活動者用のテントサイトの確保

・災害ボランティアセンター用の資機材の貸与もしくは提供

・地域防災計画内の HSVN 関連事項の具体化(発災後1時間～6時間の協議)

◆仕組み・連携に関して

・災害ボランティアセンターの設置運営に関する協定の締結

・平時において HSVN が行政と話をする相手は誰か?

・担当部局の災害ボランティアセンターに関する積極関与

- ・行政―社協のコミュニケーションの円滑化
- ・連携会議の定期開催(年4回程度)

2018年町長、町議との懇談会に提出した資料より

HSVN から見た、町と葉山町社協の役割について

発災時に行政から災害 VC の設置を依頼される立場の葉山町社協が、町の総合防災訓練に参加していないことは残念なことです。災害対応の緊急性・重要性和社協の役割を考えると、是非参加してもらいたいと思います。

また、多くの市町村では災害 VC の設置に関して、行政と社協との間で協定が結ばれています。HSVN 設立当初から協定締結の予定があることは聞いていましたが、いまだ未締結のままです。協定がなくとも、町と社協の信頼関係によって災害 VC が支障なく運営されるのなら構わないとも言えますが、その関係性については HSVN が判断できるものではありません。HSVN としては、町と社協がさらに強い提携を築いていくように望みます。

HSVN はあくまでボランティア団体です。かつて支援活動に行った鹿沼市など、災害 VC の運営がうまくいった災害 VC は、例外なく運営主体である社協が有効に機能し、職員の尽力があったから、ボランティアの支えもうまく機能した結果であると思います。その意味で、社協職員の「葉山災害 VC は社協が立ち上げるのだ」という意識共有の更なる推進を望むと同時に、今後も社協と HSVN の信頼関係をより強固なものにするべく、努力していきたいと思います。

葉山町社協から見た、HSVN の次の 10 年に向けて

発足から10年間を振り返って、HSVN は様々な活動をされてきました。葉山町社協と協働で実施してきた活動や、HSVN 独自で実施してきた活動もありますが、この10年で積み重ねてきたものは、HSVN はもちろん、葉山町社協にとっても大きな財産と感じています。

これまで HSVN と葉山町社協は共催で訓練を行ってきましたが、訓練だけでなく、災害 VC 運営者養成講座等により、新たな担い手を養成することも、設置主体の葉山町社協としても、HSVN と一緒に考えていく必要があると考えています。

葉山町社協としては、今までの経験を財産として、HSVN と一緒に災害 VC を運営していきたいと思っています。

HSVN の益々の発展とご活躍を心より願っております。

発行日 2022年6月5日

編集・発行 葉山災害ボランティアネットワーク

社会福祉法人 葉山町社会福祉協議会